

令和2年度 横浜緑園高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	職員行動指針・懲戒処分の指針を再確認し、公務外非行をゼロにする。	○「神奈川県職員行動指針」及び「懲戒処分の指針」をもとに、県の職員として求められる行動を再確認した。 ○朝の打ち合わせや職員会議等で不祥事に関する事例や新聞記事を紹介するなど、日々注意喚起するとともに、重点的・喫緊の課題については、事故防止会議を実施して事故・不祥事防止を徹底した。 【達成状況】 公務外非行はなかったため、「目標達成」とする。
児童・生徒へのわいせつな行為等の防止	生徒との接し方に注意し、わいせつ・セクハラ行為と受け取られないようにする。	○複数回の研修を実施し、生徒に対するわいせつ・セクハラ等の行為について、組織的な防止体制をとることを確認するとともに、職員の不用意な発言に対する注意喚起を行った。 【達成状況】 わいせつ・セクハラ事案はなかったため、「目標達成」とする。
体罰・不適切な行為（指導）の防止	生徒の人権を尊重し、身体的なものだけでなく言葉による暴力を含めた体罰・不適切な行為（指導）を根絶する。	○体罰・不適切な指導を根絶するために職員の意識統一を図り、気づいたことを指摘し合う職場環境を整備した。 ○8月に全職員を対象にした職場研修を実施した。 【達成状況】 一人ひとりの職員が生徒に対して懇切丁寧な対応を心掛け、体罰等の不適切な指導はみられなかったため、「目標達成」とする。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故をゼロにする。	○入学者選抜における新たな対応についての課題を把握し、確実に業務を遂行する体制を整備した。 ○マニュアルをもとに各業務における作業手順等について確認し、点検体制等を確実に実施した。 【達成状況】 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成において確実な業務遂行ができたため、「目標達成」とする。
行政文書の取扱い、個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	全職員が行政文書、個人情報の適切な取扱いを行う。	○個人情報の持ち出しに関する手続き等について再確認し、個人情報の漏出、紛失、誤廃棄、誤配付、誤送信の未然防止を徹底した。 ○行政文書類も含めて管理している情報の点検を実施し、保存期限の過ぎた文書・情報については、複数の目で確認の上、起案し確実な廃棄を行った。 【達成状況】 個人情報の持ち出しを必要最小限に抑えただけでなく、その管理もしっかりと行うことができたため、「目標達成」とする。

交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の発生を未然に防止するとともに酒気帯び運転や飲酒運転を根絶する。	○12月に全職員を対象にした交通法規、処分事例などに関する資料を配付して交通事故防止意識を高めるとともに、事故発生時の対応等についても周知した。 【達成状況】 職員による重大な交通事故や交通違反はなかったため、「目標達成」とする。
会計事務等の適正執行	会計事務を適切に行い、不適正な執行をゼロにする。	○4月に本校作成の「私費会計ハンドブック」をもとに私費会計基準に沿った私費の適正な執行について会計担当者に周知するとともに、必要に応じて担当者会議を開催して適正な会計処理を行った。 ○各予算の執行においては、会計担当者に伝票の作成や適正な執行について指導し、会計処理手続きの再確認を行った。また、業務アシスタントとも連携して帳簿類の整備をすすめた。 【達成状況】 適正な会計処理を行うことができたため、「目標達成」とする。
学校現場特有の事故防止	感染症対策の徹底と生徒の心身の健康管理について職員の共通理解を図り、感染拡大を防止する。	○感染症対策について常に情報共有に努めたほか、登校再開後の7月に職員研修を実施し、衛生管理体制、生徒への衛生教育、体調不良時の対応等について、全職員で共通理解をもった。 【達成状況】 年間を通して適切な感染症対策を継続し、感染状況も最小限に抑えることができたため、「目標達成」とする。

○令和2年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び令和3年度に取り組むべき課題

令和2年度は、事故防止会議を計18回実施したほか、必要に応じて職員研修も行った。事故防止会議では各回テーマを設定し、適切な時期に効果的な内容を考え、主に業務の担当者が中心となって実施することで、担当者の事故防止に対する意識が高まり、職員の事故防止意識の向上につながる内容の研修が実施できた。

わいせつ・セクハラ行為の防止については、常勤職員だけでなく非常勤講師にも定期的に注意喚起を行い、学校組織全体として事故防止に努める体制づくりをすすめた。体罰・不適切な指導の防止においては、研修教材をもとに研究協議を行う場面を設定した。一人ひとりの考えを共有化した上で組織として防止する体制づくりをすすめるとともに、個人としての留意点についても再確認を行う場面を設定した。また、県内で起きた事故・不祥事の事例をもとに「当事者意識」について再確認を行う研修を実施し、事故・不祥事を組織として防止する体制を再確認する場面を複数回設定した。入学者選抜においては、あらたな業務への対応について戸惑いもあったが、今年度の反省を生かし、来年度は必要な整備をすすめていきたい。さらに、感染症対策を徹底することも事故防止と捉え、必要な研修を行った。生徒が安心・安全に学校生活を送ることのできる職場環境を整えるとともに、新しい生活様式に対応した学校づくりをすすめることができた。

今後も気になることはすぐに声を掛け合うという職場環境を整備し、事故・不祥事をゼロにするとともに、生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを継続し、学校全体として不祥事を徹底防止する体制をさらに整備していきたい。